

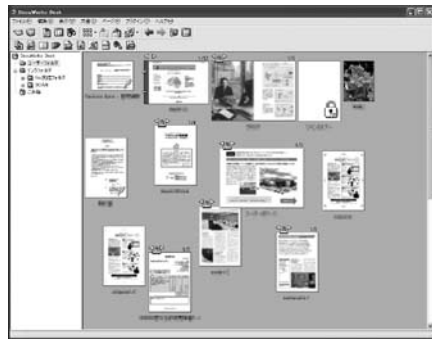
● Microsoft Office Groove (マイクロソフト)

グループウェアの元祖と言われる「Lotus Notes」の開発者レイ・オジー氏が開発したコラボレーションソフトウェア。2007 Microsoft Office System を構成するソフトウェアとして提供されている。ユーザー間でのメッセージやファイルのやり取りが可能のほか、予定表、電子会議室、画像共有、案件管理、メモ帳、ファイル共有などの機能をもつ。最大の特徴はP2P技術の活用と強固なセキュリティ機能にあり、厳重なセキュリティ対策を施したサーバーなどの高価な設備を用意しなくても、インターネットを介して情報を安全に共有できる。Groove 上での作業は「ワークスペース」という単位で個別に扱えるため、複数の案件の同時管理が容易。会計業界で Groove が注目されているのは、顧客との会計データのやり取り、事務所内での文書管理や進捗管理などが簡単に行えるため。ワークスペースにより守秘義務のある顧客情報を安全に管理できる点も評価されている。



● DocuWorks (富士ゼロックス)

「電子の世界に紙を作る」をコンセプトに開発されたドキュメント管理ソフトウェア。スキャナで取り込んだ紙文書のほか、Word、Excel、PowerPoint、PDF など、さまざまな形式の電子文書に対応している。これら文書を仮想的な机の上に本物の紙のように並べ、束ねたりばらしたり、読んだり書き込んだりすることができる。さらにフォルダを使って文書を階層的に整理したり、検索機能を使って大量の文書から目的のものを素早く探すことができる (OCR機能により紙文書の検索にも対応)。DocuWorks が会計業界で注目されているのは、帳票類や顧客に提出する資料などを電子化することで、書類作成作業を効率化できるため。検索機能により必要な書類を探す手間が省けるほか、以前に作成した書類の再利用、ひな形書類を使った業務の効率化なども行える。



別に管理しなければなりませんし、顧客ごとに作業の進み具合を確認する必要もあります。事務所ごとにいろいろと工夫をしていると思いますが、全顧客の情報と作業の進み具合を素早く把握できるように管理するのは難しいことではないかと思えます。私が Groove に触れて衝撃を受けたのは、この煩雑な顧客管理を Groove で簡単にこなすことに気づいたからです。

—— Groove はコラボレーションソフトウェアと呼ばれていますが、グループウェアの発展型と考えても良いと思います。言ってみれば、グループウェア上で会計事務所の顧客データを管理するということですね。

阿部 そう言っても良いかもしれません。Groove 上で顧客の情報を管理することで、私と職員が顧客情報や作業の進捗状況を共有できます。さらに顧客との会計データの共有も Groove で行えます。顧客が会計ソフトをいじったから、それが瞬時に私たちにも分かれますから、会計データのやり取りの手間を大幅に省くことができます。

松波 Groove で顧客情報を管理する最大のメリットは、強固なセキュリティにあると思います。Groove ではデータは自動的に暗号化して保存されますし、ネットワーク上での通信も自動的に暗号化されています。各顧客の情報も、「ワークスペース」という単位で個別に管理でき、

INTERVIEW

ITを活用して税理士業務を効率化
B-TEAMが探る新しい会計事務所の姿

阿部隆幸税理士事務所 所長 税理士 阿部隆幸
松波会計事務所 所長 税理士 松波竜太
富士ゼロックス株式会社 営業本部 渡部重雄
マイクロソフト株式会社 インフォメーションワーカージネス本部 林 達郎

膨大な資料の管理は会計事務所にとって永遠の課題だが、ITを駆使して効率的な文書管理とデータ共有化を行い、生産性向上の研究を重ねている組織がある。それが、「中小企業経営に役立つIT」というテーマを実務的な視点から検討、実践、発信する会計人を中心とした有志の研究会「B-TEAM」だ。弊誌では2月号から、B-TEAMによる連載が開始されることになっている。それに先立ち、B-TEAMが注目しているソフトウェアの活用法、ITを巡る会計業界の方向性について、参加者の皆さんにお話を伺った。

B-TEAM発足の経緯

—— 弊誌では Business Report などで何度も紹介させていただいていますが、あらためて「B-TEAM」発足の経緯からお伺いしたいと思います。

阿部 B-TEAM は、マイクロソフトのコラボレーションソフトウェア「Microsoft Office Groove® 2007」による会計事務所の合理化や生産性向上を研究する「Groove研究会」からスタートしています。同会結成のきっかけは、私が Groove に初めて触れた時に、会計事務所の業務を劇的に効率化できると衝撃を感じたことです。それで、ほとんど衝動的に周囲の人たちに声を

かけ、研究会を始めました。

現在は研究の内容が Groove 以外の分野にも広がりましたので、名称を B-TEAM に変えています。具体的には、富士ゼロックス(株)のドキュメント管理ソフトウェア「DocuWorks」、ビズソフト(株)の収支管理ソフトウェア「経理ナビ(ツカエル経理)」などの活用方法を研究しているほか、ダイナミックDNSクライアント(本格的な環境がなくてもインターネット上にウェブサイトを公開できるツール)など、便利に使えるツールの情報交換もしています。

Groove や DocuWorks などを実際の業務に使っていると、分からないことが次々に出てきます。しかし、仲間と訊くと、「こんな使い方があったのか」と感心することが多々あります。そこで、研究会を繰り返しているというわけです。

—— Groove はグループウェア(共同作業を支援するソフトウェア)の元祖 Lotus Notes の開発者であるレイ・オジー氏が作ったソフトウェアとして有名ですし、米軍が使っているほど信頼性が高いことでも知られています。ただ、素朴な疑問で恐縮ですが、会計事務所では Groove を使うことにどんなメリットがあるのでしょうか。会計ソフトを研究しているというのなら分かりやすいのですが……。

阿部 会計事務所の業務は、ある意味ではきわめて煩雑なものだと思います。顧客の情報は個



●阿部隆幸 (あべ・たかゆき)

阿部隆幸税理士事務所所長。税理士。ITを積極的に活用した顧客支援、事務所運営をしていることで知られる。B-TEAMなどの活動を通じ、会計事務所におけるIT活用の高度化に尽力。



●渡部重雄 (わたべ・しげお)

富士ゼロックス(株)営業本部SMB推進室Sプロジェクトマネージャー。会計業界におけるDocuWorksの普及のため、講演活動などを積極的に行っている。



●松波竜太 (まつなみ・りょうた)

松波会計事務所所長。税理士。統計学を駆使した顧客支援で知られている。B-TEAMの活動などを通じ、ITの会計事務所業務への応用を研究。



●林 達郎 (はやし・たつろう)

マイクロソフト(株)インフォメーションワーカービジネス本部Office製品マーケティンググループ・シニアプロダクトマネージャー。2007 Microsoft Office systemの法人向けマーケティングを担当。

ワークスペースごとにアクセスできる人間を限定することができます。つまり、ある顧客が別の顧客の会計データを見ることはできないということ。会計事務所には守秘義務がありま

すから、そのあたりの信頼性の高さには重宝しています。

また、Grooveを事務所のPCだけでなく、自宅のPCやノートPCなどにも入れておくと、事務所です仕事を中断し、自宅に帰ってから同じデータで仕事の続きをするといったこともできます。出張中に職員の作業の進み具合を把握できるのも便利です。

——顧客の情報を集中的に管理する仕組みはGroove以外にもあると思います。

松波 そのようなシステムは、従来はサーバー・クライアント型(事務所やデータセンターなどにサーバーコンピュータを設置し、そこに

B-TEAMの活動について、感想をお伺いしたいと思います。

林 税理士の先生方の業務において、Grooveを当社がまさに意図していた通りの用途にご活用いただき、また、皆様にこうして研究会まで立ち上げてGrooveを業界内に広める活動をしていただき、大変感謝するとともに感激しております。当社ではGrooveを販売しているだけでなく、社内でも共同作業および情報共有を効率よく実現するためのツールとして業務で使用しています。社内における複数のチーム間における共同作業および情報共有のみならず、社外の制作会社様と製品カタログを製作するプロジェクトを遂行する際などにもGrooveを活用しています。案件およびファイルの管理、チャットやディスカッションツールなどGrooveに標準で装備されたコミュニケーションツールでの簡

顧客情報などを集約する方式)だったと思いますが、GrooveはP2P型(複数のPCが相互に通信して顧客情報などを共有する仕組み)なので、PCだけで使い始めることができます。手軽に導入できるのもGrooveのメリットだと思います。

阿部 Grooveは会計事務所向けに開発されたソフトウェアではないと思いますが、会計事務所

のニーズに不思議なほど合っていますね。

——Grooveの活用は、顧客へのサービス向上につながりますか。

阿部 私たちB-TEAMは、会計事務所におけるITの活用だけでなく、ITを活かした顧客支援という分野にも取り組んでいます。未曾有の不況のなか、私たち会計人は中小企業のために何ができるか、どういう支援ができるのかを真剣に考えなければなりません。経営に役立つ

単な打合せ、大容量のデータのやりとりなどを安全かつ手軽に効率よく行えるのがGrooveのメリットです。また、ワークスペースへの匿名でのアクセスをGrooveは禁止しており、さらにワークスペース内の情報は自動的に暗号化が施されます。

ですから、会計事務所の皆様は、顧客とのデータのやりとりをセキュリティが担保された環境で効率よく実現するためにGrooveをご利用くださっていることを、誠に嬉しく感じております。

——マイクロソフトは誰もが知っている世界的企業ですが、Groove自体の知名度はどうでしょうか。

林 Grooveは2007 Microsoft Office Systemを構成しているソフトウェアのひとつなのですが、Microsoft Office Word[®] またはMicrosoft

つアドバイザー、経営参謀になりたい。そういう思いがこの研究会の柱になっています。

顧客のリアルタイムの動きが分からなければ、明日の動きも予測できません。リアルタイムかつ安全に顧客とデータのやり取りができれば、これまでよりも確かなアドバイスができると思います。そのためインフラとなるのがGrooveであり、DocuWorksであるという点です。

また、資金会計を中心とした会計ソフトの運用、過去の経営情報を統計的に分析することから将来を見る方法、そういったことを研究し、成果を積極的に公開していくつもりです。

Grooveの普及状況

——本日は、Grooveの開発元であるマイクロソフトの林さんにもご同席いただいています。

Office Excel[®]に比べれば、確かにまだ知名度は高くないかもしれませんが、これは、Grooveが国内で販売されてからまだ日が浅いことが影響していると思います。Wordには約25年の歴史があります。Grooveはリリースしてからまだ2年程度しか経っていません。しかしながら、サーバーなど特別な投資を必ずしも要せずに低コストで、またセキュリティが担保された環境で、組織の垣根を超えて効率よく共同作業や情報共有を実現できるGrooveは、コラボレーションとセキュリティが叫ばれている昨今の時代のニーズにマッチする製品であると確信しております。より多くの皆様にGrooveの価値を知っていただけるよう今後も引き続きGrooveの認知度向上に向けた取り組みに励んで参ります。

——会計業界以外の分野で、Grooveはどんな使われ方をしているのですか。

林 税理士の先生方のご活用方法と大きくは違いません。やはり社内における、また社外にわたる共同作業と情報共有のシーンにおいてお使いいただいています。Grooveの特徴のひとつとして、Grooveのワークスペース内の情報は暗号化が自動的に施され、さらにファイアウォール（不正アクセスから社内ネットワークを守る仕組み）を経由して通信されるので、取引先との共同作業および情報共有が組織の垣根を超えてシームレスに実現できるとご好評をいただいています。

阿部 中小企業や税理士事務所は特にそのようなですが、社内で完結する仕事はほとんどありません。その意味で、インターネットを介して安全に情報共有ができるGrooveは便利だと思います。今ではメールでのやりとりが普及していますが、メールは一般の人が考えているほど安全なものではありません。会計データのような重要な情報は、もっと安全なやり方でやりとりしなければなりません。

私の事務所では、ひとつの仕事が始まると、ワークスペースを作成し、そこにDocuWorksの書庫から必要なものをコピーします。さらに担当するスタッフをワークスペースに参加させ、作業してもらいます。決算書という成果物ができれば、作業ファイルなどはワークスペースごと削除してしまいます。非常に高い機密性を

維持することができます。作業ファイルを削除しても、オリジナルのファイルはDocuWorksの書庫にあるわけですから、問題はなりません。

会計事務所における DocuWorksの活用

—— DocuWorksの話が出てきましたが、松波先生も事務所ではDocuWorksを使っておられるそうですね。

松波 私がDocuWorksの存在を知ったのは、B-T E A Mの研究会で富士ゼロックスの渡部さんとお会いし、いろいろと教えていただいたからです。ただ、すぐには導入に至らず、8ヵ月ほどかかっています。また、DocuWorksはドキュメント管理ソフトウェアですが、最初に聞いた時は、正直なところ「電子文書ならPDFがあるじゃないか」とも思いました。

しかし、調べてみると、PDFとDocuWorksは開発思想が少し違うのです。PDFは、異なるPC環境でも書式や書体を崩さずに電子文書を表示・印刷することを主眼に作られたものです。逆にDocuWorksは、紙の書類で行っていた作業をPC上で行えるようにすることを目的にしています。そのことを知ってから、DocuWorksを業務に使ってみようと思うようになりました。

た。1つのディスプレイでDocuWorksの書類を見ながら、別のディスプレイで会計ソフトのウィンドウを表示し、両方を見ながら作業をする。このようにすると、電子文書でかなり効率的に作業を進められることが分かったのです。

その後、私の事務所では、Grooveを利用して、DocuWorksの文書を共有するようになりました。この文書はGrooveのおかげで外出先でも見ることが出来ますから、ノートPCを持ち歩けば、自分の事務所を鞆に入れて移動しているような感覚で仕事ができます。

阿部 私もDocuWorksのことは、勉強会のメンバーから聞いていました。しかし、実際に操作したことはなかったもので、「便利だよ」と言われてもピンときませんでした。そんな時、東京税理士会の研究会でDocuWorksの講習を受けて感心しまして、すぐに過去の文書3年分をDocuWorksに取り込むことにしました。紙の場合と違い、文書を探す時に検索機能を使えるのが大きいですね。

—— 現在、DocuWorksはどれくらい普及しているのでしょうか。

渡部 当社では、DocuWorksが2007年に200万ライセンスに達したと発表しています。もちろん、会計事務所以外のお客様のほうが数としては多いのですが、最近はおかげさまで、会計事務所の標準ソフトだと言ってくくださるお

—— 本日はDocuWorksの開発元である富士ゼロックスの渡部さんにもご同席いただいています。DocuWorksの特徴についてお聞かせください。

渡部 DocuWorksで文書を扱う際には「DocuWorks Desk」というソフトウェアを使用しますが、このソフトを起動すると、PCの画面上に「机」が再現されます。この仮想的な机の上には、スキャナで取り込んだ紙の文書、WordやExcel、PowerPointなどの文書ファイルのほか、PDFファイルなどを置くことができます。

机ですから各文書を好きなところに置けますし、必要であれば複数の文書をクリップで束ねることもできます。書類を読んで文字を書き込むこともできますし、付箋を貼っておくこともできます。まさに机に向かって書類を書いているのと同じ感覚で、電子文書を扱うことができます。

—— 机の上でやっていた書類作業をPC上で行うことにはどのようなメリットがあるのですか。
渡部 やはり効率性ですね。会計事務所では、膨大な量の書類を扱うのではないかと思います。そのような書類は担当職員の机の上に山積みになっていたり、何台ものキャビネットに収まっていたりするのではないのでしょうか。そんな大量の書類から必要なものを見つけるのはたいへんなことです。そのような書類をスキャナでDocuWorksに取り込めば、膨大な数の文書で

お客様もいらっしゃいます。実際のところ、ずいぶん普及してきたと思います。

会計事務所におけるさらなるIT活用を目指して

—— 今後のB-T E A Mの方向性についてお聞かせください。

阿部 私たちは、研究の成果を積極的に公表していきたいと思っています。それが何らかの形で中小企業の活性化に貢献することになれば良いと思います。

現在、B-T E A Mのメンバーは8人ですが、今後増やしていきたいと考えています。会則があるわけではなく、NPOでもない。非常にゆるやかな団体です。コアメンバーが集まれるところで研究会を実施しながら、セミナーやイベントで参加者を募っていきたいですね。

また、「実務経営ニュース」への連載という形で研究成果を発表していきたいとも思っています。そちらもご期待ください。DocuWorksやGrooveは、税理士業務に驚くほど向いていますから、その利便ささえ分かってもらえればすぐに広まると思います。

—— 本日は興味深いお話をお聞かせくださり、どうもありがとうございます。B-T E A Mの躍進を期待しています。

もPC上で素早く閲覧することができます。スキャナで読み込んだ書類にはOCR機能で文字データを持たせることができます。テキスト検索を行うことができます。キャビネットといった書類をノートPCで持ち歩いたり、検索機能で素早く探し歩いたりすることができれば、大幅な効率化につながると思います。

また、従来は別々に管理していた、紙の文書、Officeの文書、PDFファイルなどが、DocuWorks Deskの仮想的な机の上で、まとめて管理できることも大きなメリットです。さらに、DocuWorksで扱うのは電子文書ですから、紙の文書と比較して再利用しやすいという特徴があります。阿部先生がさきほどおっしゃっていたように、よく使う書類をDocuWorksの書庫に保管しておき、必要な時にコピーして使うといった作業が容易です。

私は研究会などで税理士の先生方にDocuWorksの講習をさせていただいたりしているのですが、PCを活用している先生ほど、DocuWorksの利便性に気づいてくださるようです。

—— 松波先生はDocuWorksをどのように活用しておられるのですか。

松波 導入してからもしばらくは試行錯誤が続いていたのですが、マルチディスプレイ環境（1台のPCに複数のディスプレイを接続すること）を導入したところ状況が一変しまし